

はりまや橋公園ポンプ設備等改修工事

図面目次

図面番号	図面名称	縮尺
M-01	特記仕様書(1)	NOSCALE
M-02	特記仕様書(2)	NOSCALE
M-03	附近見取図・位置図・工事概要	NOSCALE
M-04	京町・中種地区 機械室内平面図	1:50
M-05	京町地区 No.1貯水槽内平面図	1:50 1:30

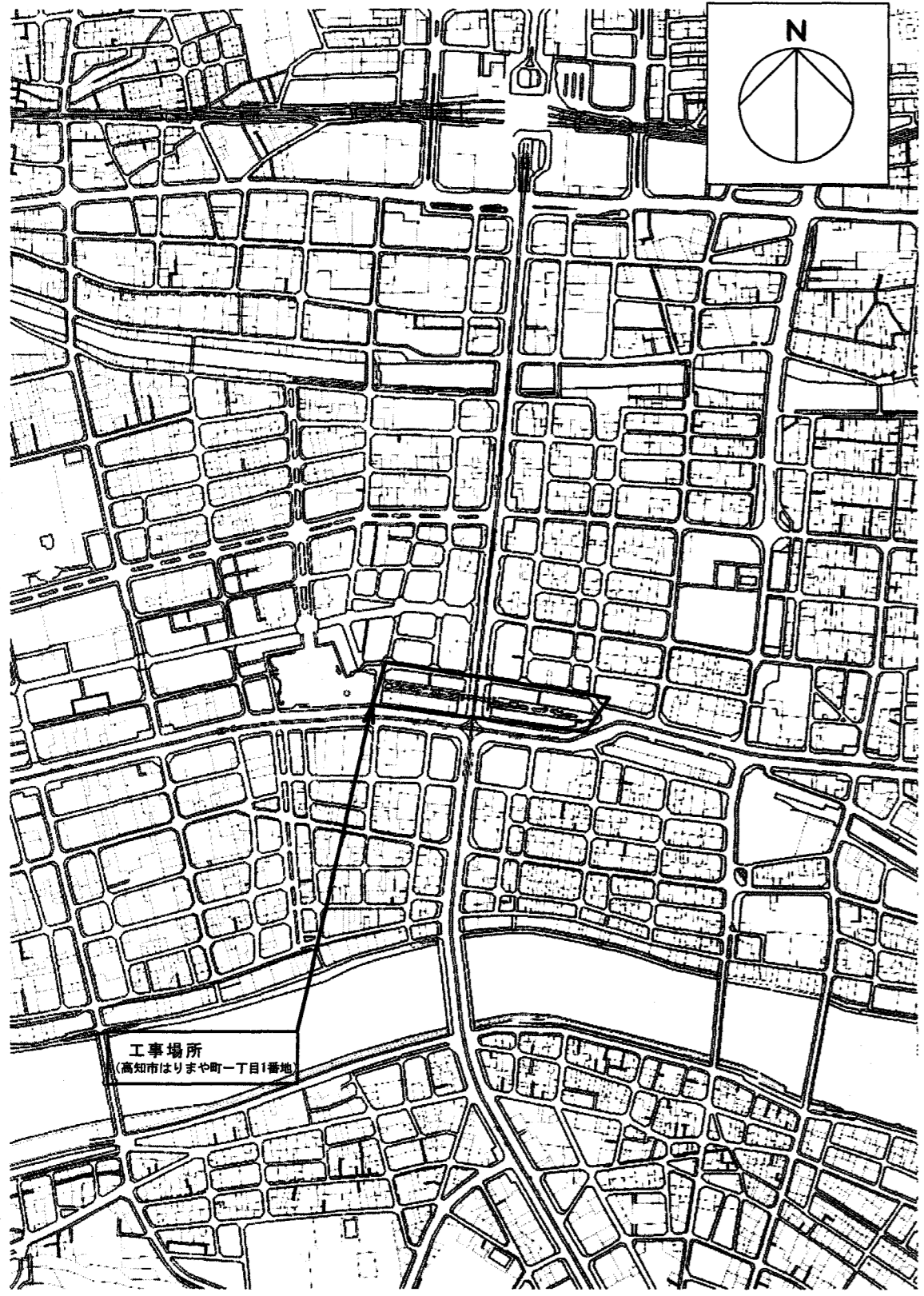
項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項																																																																																																																																				
機械設備特記事項																																																																																																																																									
① 標識その他	<p>※ 配管表記 (1.1.7.4準拠) [1.1.8.5準拠]</p> <p>a) 機械室・ピット・PS内・天井点検口・配管分岐場所には必ず表記する。 b) 表記内容は、流体・サイズ・系統名とし、場所・向き・文字サイズ等事前協議決定後に施工する。 c) 配管の識別は、原則としてJIS Z 9102によるものとし、識別方法は、色合いは監督職員の指示による。</p> <p>※ 機器表記 (該当する主要機器は事前に確認する。)</p> <p>a) 設計記号の付いている主要機器には、カッティングシート等に表記 (管理番号・室名・設置年月等) を行う。 b) パッケージエアコン等の空調機は、室内機だけでなく室外機にも表記を行う。 c) 水中に設置する各種主要機器類は銘板 (製造社名・製造年月・型番・性能等) を壁付近にも設ける。</p> <p>※ 弁には、開閉等を記入したアクリル札を取付け、風で飛んだり騒音を立てないように固定するか、表示方法を協議する。 ※ 埋設弁ボックスには、内部に系統名・管サイズ・設置年月を書いたアクリル札を入れる。 ※ 埋設弁ボックスの蓋は、流体の行き先側に蓋の付根を向ける。 ※ 排水以外の屋外埋設管には、曲がり・分岐部・その他埋設管の位置が確認できるように地中埋設標を設ける。 ※ 排水以外の屋外埋設管の埋戻し時には、GL-150mm程度に埋設表示用アルミテープを埋設する。</p>	<p>11 メカニカル継手</p> <p>※ メカニカル継手は伸縮可とう・離脱防止性能を有し、内外面エポキシ粉体塗装を施したものとす。 ※ 改修工事等で銅管類 (ライニング銅管) を切断して、やむを得ずメカニカル継手を使用する場合には、切断部の防錆処理として、JAWWA K 136規格適合品にて処置する。</p> <p>12 吊り及び支持</p> <p>※ 原則として下図に使う。詳細は国土交通省仕様による。 (2.2.6.3準拠) [2.2.4.3準拠]</p> <table border="1"> <caption>横走り管の吊り及び振れ止め最大支持間隔</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">分類</th> <th colspan="12">呼び径</th> </tr> <tr> <th>15</th><th>20</th><th>25</th><th>32</th><th>40</th><th>50</th><th>65</th><th>80</th><th>100</th><th>125</th><th>150</th><th>200</th><th>250</th><th>300</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">吊り金物による吊り</td> <td colspan="6">鋼管等 2.0m</td> <td colspan="6">3.0m</td> </tr> <tr> <td colspan="6">ビニル管等 1.0m</td> <td colspan="6">2.0m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">形鋼振れ止め支持</td> <td colspan="6">鋼管等 - 8.0m</td> <td colspan="6">12m</td> </tr> <tr> <td colspan="6">ビニル管等 - 6.0m</td> <td colspan="6">8.0m</td> </tr> </tbody> </table> <p>立て管の固定及び振れ止め箇所</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>固定</th> <th>鋼管等</th> <th>最下階の床又は最上階の床</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">形鋼振れ止め支持</td> <td>鋼管等</td> <td>各階1箇所</td> </tr> <tr> <td>ビニル管等</td> <td>各階1箇所</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 国土交通省仕様どおりに吊り配管等を実施しても、他の資材配管等と干渉する場合は振止めを適宜設ける。 ※ 屋外等で吊り金物による施工ができない場合には、ブラケット等に配管及び配管付属品を支持し、配管荷重による管の移動を抑える。</p>	分類	呼び径												15	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300	吊り金物による吊り	鋼管等 2.0m						3.0m						ビニル管等 1.0m						2.0m						形鋼振れ止め支持	鋼管等 - 8.0m						12m						ビニル管等 - 6.0m						8.0m						固定	鋼管等	最下階の床又は最上階の床	形鋼振れ止め支持	鋼管等	各階1箇所	ビニル管等	各階1箇所	<p>24 柵</p> <p>25 防護施工</p> <p>26 転倒・落下・傾き防止</p> <p>27 特定天井への対応</p> <p>28 耐震施工</p>	<p>b) 維持管理を管理業者に引継ぐ場合は、直前に水質検査 (BOD・SS・PH・大腸菌・塩素イオン) を行い、そのコピーを管理業者、施設管理者、監督職員に渡し、設計・施工・現状の注意事項を申し送ることを。 ※ 見えやすい場所に、型式・施工者名・設置年月・処理能力・放流水質を記入した銘板を設置する。</p> <p>※ コンクリート製の柵 (工場製柵) には、仕上りが5cm程度に砂利又は砂等で基礎を施す。 ※ プラスチック製の柵には、コンクリート製または既設の複合材製による基礎を施す。 ※ 柵後面に設置されない柵の蓋は、周囲をモルタル等 (厚さ10cm程度) により保護する。 [下水道排水設備指針と解説準拠]</p> <p>※ 機器の振動が動物に影響を及ぼすおそれのあるものは、適切な防護措置を施す。 ※ 電動機等により振動を生じる機器及び配管の固定部にはダブルナットやストッパーボルト等により締め、脱落防止措置を施す。ナットは、アイマークにより締付けが確認できるようにし、ナットに対するボルトの余長は3山以上を標準とする。 [公共建築設備工事標準 (機械設備工事編) 準拠]</p> <p>※ 床又は壁に設置の機器で重量が大きく重心位置が比較的高い機器については転倒防止措置を施す。 ※ 天井吊り機器には振止め用形鋼架台や斜材を用いる等して落下・傾き防止措置を適切に施す。 ※ 天井吊り機器と吊り金物との接続箇所毎に防護装置を設ける。 [建築設備検査資格者講習テキスト準拠]</p> <p>天井吊り機器等の施工方法は、「建築物における天井脱落対策に係る技術基準」に適合すること。</p> <p>設備機器の固定等は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針 (2014年版)」及び建設大臣官房官庁営繕部監修の「官庁施設の総合耐震計画基準及び耐震設計 (平成8年版)」による。局部震度法による設計用標準震度は、構造体の耐震安全性の分類、設備機器の重要度及び設置階により決定する。100kg以上の機器に適用し、それ以下の機器については監督職員と協議する。 給湯設備の転倒防止措置は、建築基準法施行令第129条の2の7第2号及び同令に基づく告示 (平成24年国土交通省告示第1447号) の定めによる。 なお、施工に先立ち、耐震強度計算書を監督職員に提出し、承認を受けるものとする。</p>																																																
分類	呼び径																																																																																																																																								
	15	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300																																																																																																																											
吊り金物による吊り	鋼管等 2.0m						3.0m																																																																																																																																		
	ビニル管等 1.0m						2.0m																																																																																																																																		
形鋼振れ止め支持	鋼管等 - 8.0m						12m																																																																																																																																		
	ビニル管等 - 6.0m						8.0m																																																																																																																																		
固定	鋼管等	最下階の床又は最上階の床																																																																																																																																							
形鋼振れ止め支持	鋼管等	各階1箇所																																																																																																																																							
	ビニル管等	各階1箇所																																																																																																																																							
② 総合調整	<p>本工事に該当する工事項目に応じて、下記項目の総合調整を行い、計画書及び報告書を監督職員に提出する。</p> <p>a) 風量調整 b) 水量・水圧調整 c) 室内外空気の温湿度の測定 d) 騒音の測定 e) 室内気流及びびじんの測定 f) 飲料水の水質の測定</p> <p>なお、季節により運転条件が異なる。使用開始から定常状態に入るまでに時間を要する等の理由により、工期内の測定完了が不可能な調整項目の対応については、監督職員との協議による。 (2.1.3.3準拠) [2.1.3.3準拠]</p>	<p>13 埋設管の保護</p> <p>※ 契約量水器までの埋設給水管及び埋設ガス管は管の周囲100mm程度に保護砂を入れる。 ※ 契約量水器以降の埋設給水管及び埋設消火管は簡易保温管で巻く。 ※ 排水管は管が移動しないように中心程度まで埋戻す。ただし、土圧及び上載荷重が管きよの耐荷重を超える場合は、遮断用砂で巻いて、外圧に対して管きよを保護する。 (2.2.7.1準拠) [2.2.5.1準拠] [下水道排水設備指針と解説]</p>	<p>29 別途工事</p> <p>30 支給品</p>	<p>局所震度法による建築設備機器及び水循環の設計用標準水平震度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">設置場所</th> <th colspan="4">耐震安全性の分類</th> </tr> <tr> <th colspan="2">特定の施設</th> <th colspan="2">一般の施設</th> </tr> <tr> <th>重要機器</th> <th>一般機器</th> <th>重要機器</th> <th>一般機器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>耐震クラス</td> <td>S</td> <td>A</td> <td>B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>上階階、屋上及び塔屋</td> <td>2.0 (2.0) [2.0]</td> <td>1.5 (2.0) [1.5]</td> <td>1.5 (2.0) [1.5]</td> <td>1.0 (1.5) [1.0]</td> </tr> <tr> <td>中間階</td> <td>1.5 (1.5) [1.5]</td> <td>1.0 (1.5) [1.0]</td> <td>1.0 (1.5) [1.0]</td> <td>0.6 (1.0) [0.6]</td> </tr> <tr> <td>1階及び地下階</td> <td>1.0 (1.0) [1.5]</td> <td>0.6 (1.0) [1.0]</td> <td>0.6 (1.0) [1.0]</td> <td>0.4 (0.6) [0.6]</td> </tr> </tbody> </table> <p>() 内の数値は防護支持の機器の場合、 [] 内の数値は水循環の場合に適用する。</p> <p>施設の種類 ・ 特定の施設 ・ 一般の施設</p> <p>地域係数 1.0 設計用鉛直地震力 設計水平地震力の1/2</p> <p>重要機器 防災機器 火を使用する機器 タンク類 消火設備機器</p>	設置場所	耐震安全性の分類				特定の施設		一般の施設		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器	耐震クラス	S	A	B		上階階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0) [2.0]	1.5 (2.0) [1.5]	1.5 (2.0) [1.5]	1.0 (1.5) [1.0]	中間階	1.5 (1.5) [1.5]	1.0 (1.5) [1.0]	1.0 (1.5) [1.0]	0.6 (1.0) [0.6]	1階及び地下階	1.0 (1.0) [1.5]	0.6 (1.0) [1.0]	0.6 (1.0) [1.0]	0.4 (0.6) [0.6]																																																																																																				
設置場所	耐震安全性の分類																																																																																																																																								
	特定の施設		一般の施設																																																																																																																																						
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器																																																																																																																																					
耐震クラス	S	A	B																																																																																																																																						
上階階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0) [2.0]	1.5 (2.0) [1.5]	1.5 (2.0) [1.5]	1.0 (1.5) [1.0]																																																																																																																																					
中間階	1.5 (1.5) [1.5]	1.0 (1.5) [1.0]	1.0 (1.5) [1.0]	0.6 (1.0) [0.6]																																																																																																																																					
1階及び地下階	1.0 (1.0) [1.5]	0.6 (1.0) [1.0]	0.6 (1.0) [1.0]	0.4 (0.6) [0.6]																																																																																																																																					
③ 配管材料	<table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>屋内露出</th> <th>天井PS内</th> <th>床下暗室内</th> <th>屋外露出</th> <th>屋外埋設</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給水</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>排水・通気</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>125A以上はVU</td> </tr> <tr> <td>給湯</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>消火</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ガス</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷媒</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>機器ドレン</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷温水</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷却水</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) 配管用炭素鋼管 (SGP黒管:JIS G 3452) (2) 配管用炭素鋼管 (SGP白管:JIS G 3452) (3) 水道用硬質塩化ビニル管 (SGP-VB:JWWA K 116) (4) 水道用硬質塩化ビニル管 (SGP-VD:JWWA K 116) (5) 水道用耐熱性硬質塩化ビニル管 (SGP-HVA:JWWA K 140) (6) 消火用硬質塩化ビニル管 (SGP-VS:WSP 041) (7) 排水用硬質塩化ビニル管 (D-V:A:WSP 042) (8) 配管用ステンレス鋼管 (SUS 304 TP-A:JIS G 3459) (9) 一般配管用ステンレス鋼管 (SUS 304 TPD:JIS G 3448) (10) 断熱材被覆鋼管 (JCDA 0009) (11) 水道用鋼管 (JIS K 6787) (12) 水道用 (JIS K 6762)</p> <p>(13) 耐火二層管 (内管VP) (14) 硬質塩化ビニル管 (VP:JIS K 6742) (15) 硬質塩化ビニル管 (VP-VU:JIS K 6741) (16) 耐熱性硬質塩化ビニル管 (HIVP:JIS K 6742) (17) 耐熱性硬質塩化ビニル管 (HT:JIS K 6776) (18) 水道配水用 (JWWA K 144) ・ 建築設備用高密度 (JWWA K 144) (19) 消火用 (JIS K 6774) (20) 排水用 (JIS K 6774) (21) 排水用 (JIS K 6774) (22) 硬質塩化ビニル管 (JIS K 6741) (23) 保温材付空調用ドレン管 (JIS C 8430準拠-JIS K 6741)</p> <p>設計図面に個別の記載があるものについてはこれによらない。 (2.2.1.2準拠) [2.2.1.1準拠]</p>	場所	屋内露出	天井PS内	床下暗室内	屋外露出	屋外埋設	備考	給水	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管		排水・通気	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	125A以上はVU	給湯	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管		消火	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管		ガス	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管		冷媒	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	-		機器ドレン	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管		冷温水	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	-		冷却水	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	-		<p>14 埋設深さ</p> <p>管の地中埋設深さは、原則として車道道路では管の上端より600mm以上、それ以外では300mm以上とする。ただし、寒冷地では凍結深度以上とする。 (2.2.7.2) [2.2.5.2]</p> <p>15 防食措置</p> <p>※ 鋼管、鉛管のコンクリート内配管にはプラスチックテープ1/2重ね1回巻きとする。 (2.2.7.3準拠) [2.2.5.3準拠] ※ 地中に埋設する鋼鉄管・鋼鉄異形管・メカニカル継手・特殊継手類にはポリエチレンスリーブ等の被覆を施すこと。 (給水装置工事施工要領)</p> <p>16 保温工事</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>屋内露出</th> <th>機械室・倉庫</th> <th>天井PS内</th> <th>床下暗室内</th> <th>屋外露出</th> <th>屋外埋設</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給水</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>排水</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>屋内空調用ドレン管は保温材付き</td> </tr> <tr> <td>給湯</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷媒</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>断熱材被覆鋼管の場合</td> </tr> <tr> <td>矩形ダクト</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>丸形ダクト</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>弁・継手類</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>鋼管</td> <td>保温材の厚さは各工種に準拠</td> </tr> </tbody> </table> <p>(イ) ロックウール保温材 (ロ) グラスウール保温材 (ハ) ポリスチレンフォーム保温材 (ニ) 簡易保温管10mm (ホ) 簡易保温管20mm (ヘ) 簡易耐熱保温管10mm (ヘ) 簡易耐熱保温管20mm 設計図面に個別の記載があるものについてはこれによらない。 (2.3.1.1準拠) [2.3.1.1準拠]</p> <p>17 塗装</p> <p>亜鉛鍍金面の塗装下地は化学処理 (エッチングプライマ) を施す。 (2.3.2.1) [2.3.2.1]</p> <p>18 はつり工事</p> <p>既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。 [2.4.1.3]</p> <p>19 非破壊検査</p> <p>はつり、穴開け及びあと施工アンカー等の施工にあたり、埋設物の事前調査を行う。施工場所を鉄筋検査器により探査し、鉄筋、配管類の位置に誤出しを行う。 [2.4.1.1]</p> <p>20 あと施工アンカー</p> <p>新當工事においては、原則としてあと施工アンカーは使用しない。 [2.5.1.3] 使用する場合には、工事の着手に先立ち施工計画書を作成し、監督職員の承認を受ける。あと施工アンカー作業における技能者は、あと施工アンカー工事の施工に関する十分な経験と技能を有するものとする。</p> <p>21 パッケージ空気調和機</p> <p>機器仕様</p> <p>a) グリーン購入法調達基準適合品とし、各メーカーの最高効率機種とする。 b) 室外機仕様 ・ JRA耐重塩害仕様 ・ 耐塩害仕様 ・ 防護架台 ・ 転倒防止金物 ・ 高調波対策仕様</p> <p>c) 室内機仕様 ・ ドレンアップメカ ・ 自動昇降パネル ・ 防護装置 ・ 振止め金物</p> <p>工事仕様</p> <p>a) ドレンアップメカにより排水する場合は、機器直近にて鳥居状に配管し、立下り部直上に挿入口を設ける。 b) 配管化被カバーは、エンドキャップを使用しテープ巻きを最小限とし、ジャバラ部材は使用しない。 c) 配管化被カバー・配管ラッキングは室外機の直近まで施す。 d) 室内機及び室外機への電源送りは電気設備工事とし、室外機間の配線及び室内機間の電気配線 (アース含む) は配管、配線共本工事とする。渡り配線で、冷暖配管と同ルートを通る場合は同配管外装内に納める。</p>	場所	屋内露出	機械室・倉庫	天井PS内	床下暗室内	屋外露出	屋外埋設	備考	給水	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管		排水	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	屋内空調用ドレン管は保温材付き	給湯	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管		冷媒	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	断熱材被覆鋼管の場合	矩形ダクト	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管		丸形ダクト	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管		弁・継手類	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	保温材の厚さは各工種に準拠	<p>22 ダクト及びダクト付属品</p> <p>空調ダクト材料</p> <p>※ 亜鉛鉄板製 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管 (VU) ・ ステンレス製</p> <p>換気ダクト材料</p> <p>※ 亜鉛鉄板製 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管 (VU) ・ ステンレス製</p> <p>屋外フード</p> <p>ウェザーカバーはステンレス製・給排気形・水切り付きとし、バンドキャップはステンレス製・深型・水切り付きとする。原則として、排気用には防鳥網、給気用には防虫網を設ける。</p> <p>23 合併処理浄化槽</p> <p>・ 浄化槽の使用開始後概ね3ヶ月間の試運転調整を行う。浄化槽法による「保守点検及び清掃等」のほか下記の事項による。 a) 最低限の点検回数は、小型・沈殿分離方式は月に1回、流量調整槽のある場合は2週に1回とする。</p>
場所	屋内露出	天井PS内	床下暗室内	屋外露出	屋外埋設	備考																																																																																																																																			
給水	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管																																																																																																																																				
排水・通気	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	125A以上はVU																																																																																																																																			
給湯	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管																																																																																																																																				
消火	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管																																																																																																																																				
ガス	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管																																																																																																																																				
冷媒	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	-																																																																																																																																				
機器ドレン	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管																																																																																																																																				
冷温水	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	-																																																																																																																																				
冷却水	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	-																																																																																																																																				
場所	屋内露出	機械室・倉庫	天井PS内	床下暗室内	屋外露出	屋外埋設	備考																																																																																																																																		
給水	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管																																																																																																																																			
排水	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	屋内空調用ドレン管は保温材付き																																																																																																																																		
給湯	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管																																																																																																																																			
冷媒	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	断熱材被覆鋼管の場合																																																																																																																																		
矩形ダクト	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管																																																																																																																																			
丸形ダクト	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管																																																																																																																																			
弁・継手類	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	鋼管	保温材の厚さは各工種に準拠																																																																																																																																		
④ 配管付属品	<p>井の使用区分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>系統名</th> <th>弁名称</th> <th>寸法区分</th> <th>規格</th> <th>耐圧</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">給水</td> <td>ボール弁</td> <td>50A以下</td> <td>青銅・管端防食</td> <td>・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K</td> </tr> <tr> <td>バタフライ弁</td> <td>65A以上</td> <td>ライニング</td> <td>・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">給湯</td> <td>ボール弁</td> <td>50A以下</td> <td>青銅・管端防食</td> <td>・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K</td> </tr> <tr> <td>バタフライ弁</td> <td>65A以上</td> <td>SUS</td> <td>・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K</td> </tr> <tr> <td>冷温水</td> <td>玉形弁</td> <td>50A以下</td> <td>青銅・管端防食</td> <td>・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K</td> </tr> <tr> <td>冷却水</td> <td>バタフライ弁</td> <td>65A以上</td> <td>ライニング</td> <td>・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K</td> </tr> </tbody> </table> <p>設計図面に個別の記載があるものについてはこれによらない。 (2.2.2.1準拠) [2.2.1.1準拠]</p>	系統名	弁名称	寸法区分	規格	耐圧	給水	ボール弁	50A以下	青銅・管端防食	・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K	バタフライ弁	65A以上	ライニング	・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K	給湯	ボール弁	50A以下	青銅・管端防食	・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K	バタフライ弁	65A以上	SUS	・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K	冷温水	玉形弁	50A以下	青銅・管端防食	・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K	冷却水	バタフライ弁	65A以上	ライニング	・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K																																																																																																							
系統名	弁名称	寸法区分	規格	耐圧																																																																																																																																					
給水	ボール弁	50A以下	青銅・管端防食	・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K																																																																																																																																					
	バタフライ弁	65A以上	ライニング	・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K																																																																																																																																					
給湯	ボール弁	50A以下	青銅・管端防食	・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K																																																																																																																																					
	バタフライ弁	65A以上	SUS	・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K																																																																																																																																					
冷温水	玉形弁	50A以下	青銅・管端防食	・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K																																																																																																																																					
冷却水	バタフライ弁	65A以上	ライニング	・ 5K ※ 10K ・ 16K ・ 20K																																																																																																																																					
5 スリーブ	<p>国土交通省仕様とする。ただし、水密を要する部分は配管用ステンレス鋼管及び水膨張性ゴムリングを用いる。 (2.2.2.27準拠)</p>																																																																																																																																								
⑥ 支持材料	<p>※ 1階土間コンクリート下部配管は、ステンレス製吊りボルトにてスラブ筋に支持する。 ※ 屋外及びピット内配管の支持金物・形鋼振れ止め金物・吊り金物・インサート金物・アンカーボルトはステンレス製とする。 ※ 形鋼振れ止め支持部材の選定は、公共建築設備工事標準 (機械設備工事編) に準ずるものとし、既製品は使用しない。 ※ 冷媒管の吊り用支持受け材として、断熱材被覆鋼管と吊り金物との間に保護プレートを設置する。</p>																																																																																																																																								
7 さや管工法	<p>さや管ヘッダー工法で施工する場合、さや管施工後に配管挿入を行い、同時施工としない。</p>																																																																																																																																								
8 変位吸収配管施工	<p>※ 建築物導入部及びエキスパンションジョイント部は、フレキシブルジョイント等を使用した方法で施工する。 ※ 埋設管の屋内外接続部では、地震沈下等の変位に対して可とう継手、伸縮可とう継手を使用する等の措置を講じる。 設計図面に個別の記載がない場合は、伸縮継手、自在継手を使用してもよい。 ※ 埋設管と露出配管の切替部 (配管立ち上がり部) に伸縮継手を取り付ける。 [給水装置工事施工要領準拠] [下水道排水設備指針と解説準拠]</p>																																																																																																																																								
⑨ フランジ接合	<p>※ 屋外及びピット内のフランジ接合材は、ステンレス製とし焼付防止処理を施す。 ※ 異種管のフランジ接合は、絶縁スリーブ、絶縁ワッシャー等による絶縁フランジ接合とする。</p>																																																																																																																																								
10 融着接合	<p>ポリエチレン管融着接合作業における技能者は、十分な経験と技能を有するものとする。</p>																																																																																																																																								

高知市 都市建設部 公共建築課

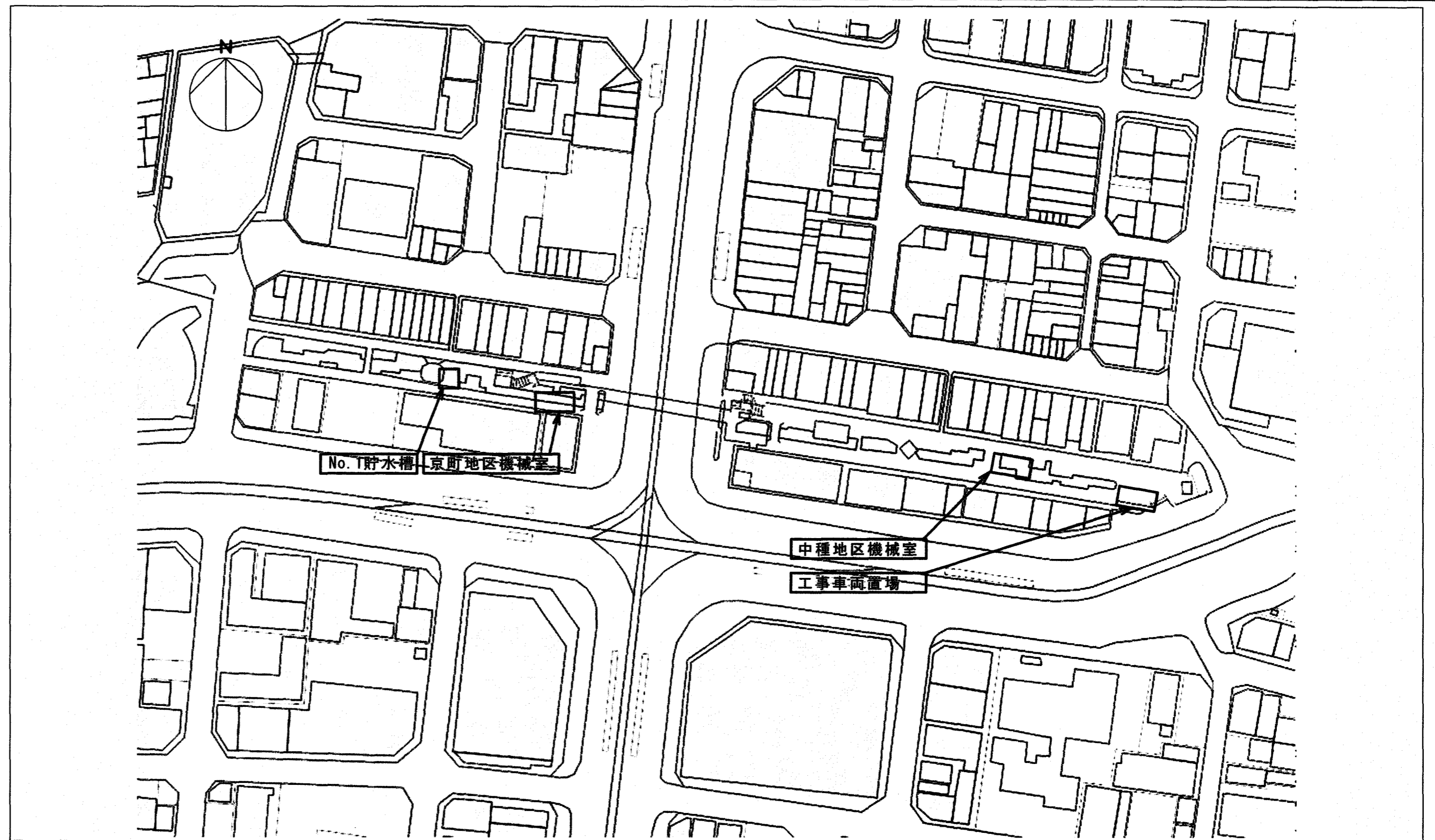
はりまや橋公園ポンプ設備等改修工事

図面名	特記仕様書 (2)	更新日	2024.5.1	作成	2024年 8月 1日
-----	-----------	-----	----------	----	-------------

係	係長	課長補佐	課長	図面番号
水	戸	中	橋	M-02



附近見取図

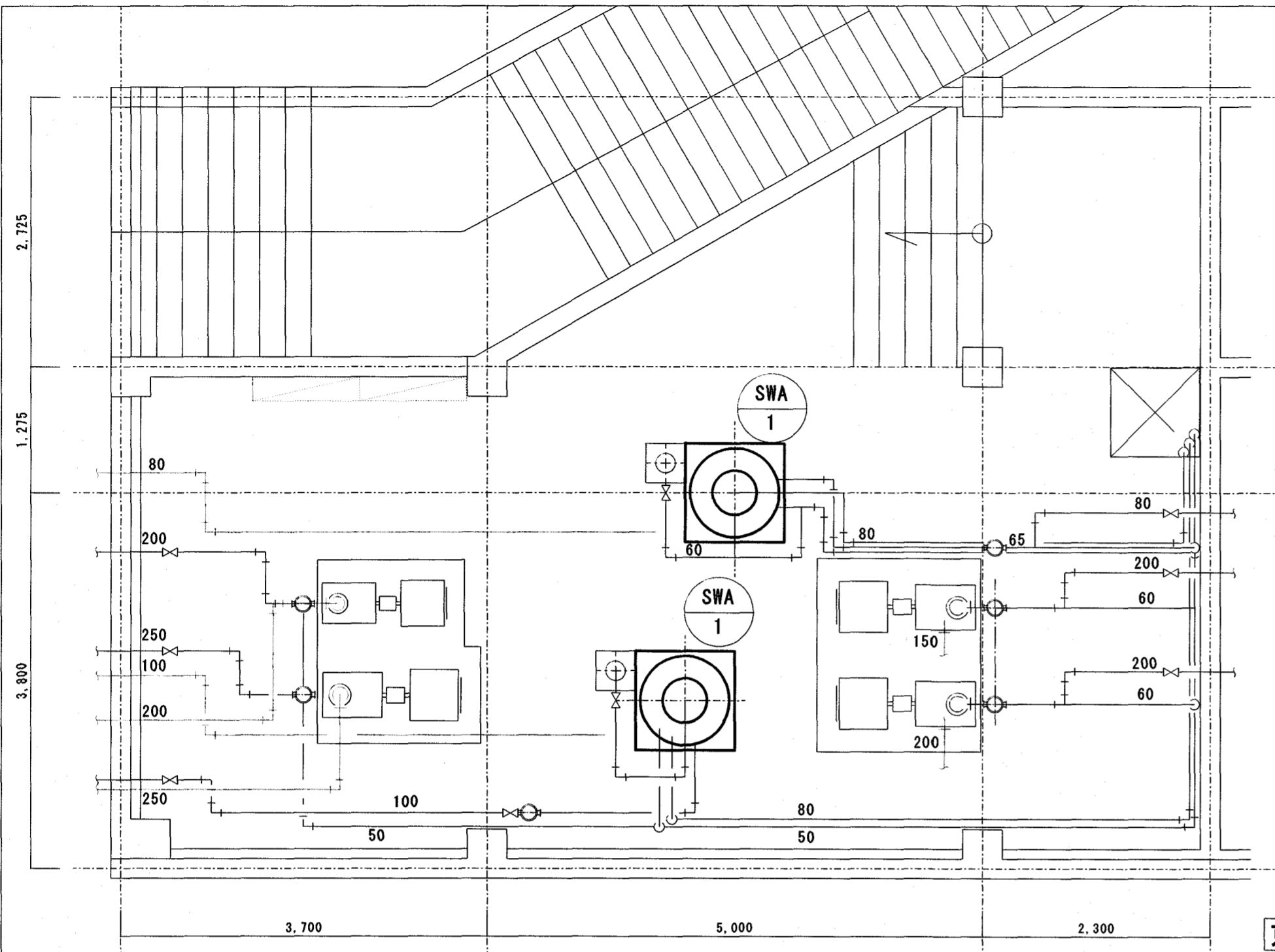


位置図

工事概要
はりまや橋公園ポンプ設備等改修工事
1. 当該公園にあるろ過ポンプ（4基のうち2基）の更新 2. 当該公園にあるろ過器内のろ材の更新 3. 当該公園にある京町地区No. 1貯水槽内の排水ポンプの更新 4. ポンプ取替後は試運転・緊急停止・交互運転を行い、電流値を測定すること。

高知市 都市建設部 公共建築課

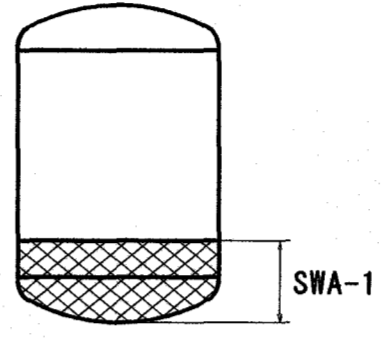
工事名	はりまや橋公園ポンプ設備等改修工事	係長	戸田	課長補佐	中村	図面番号	M-03
図面名	附近見取図・位置図・工事概要	縮尺	N.S.	作図	2024年 8月		



ろ過材仕様

記号	仕様	総量
SWA-1	ろ過砂 Φ1.1mm	690L

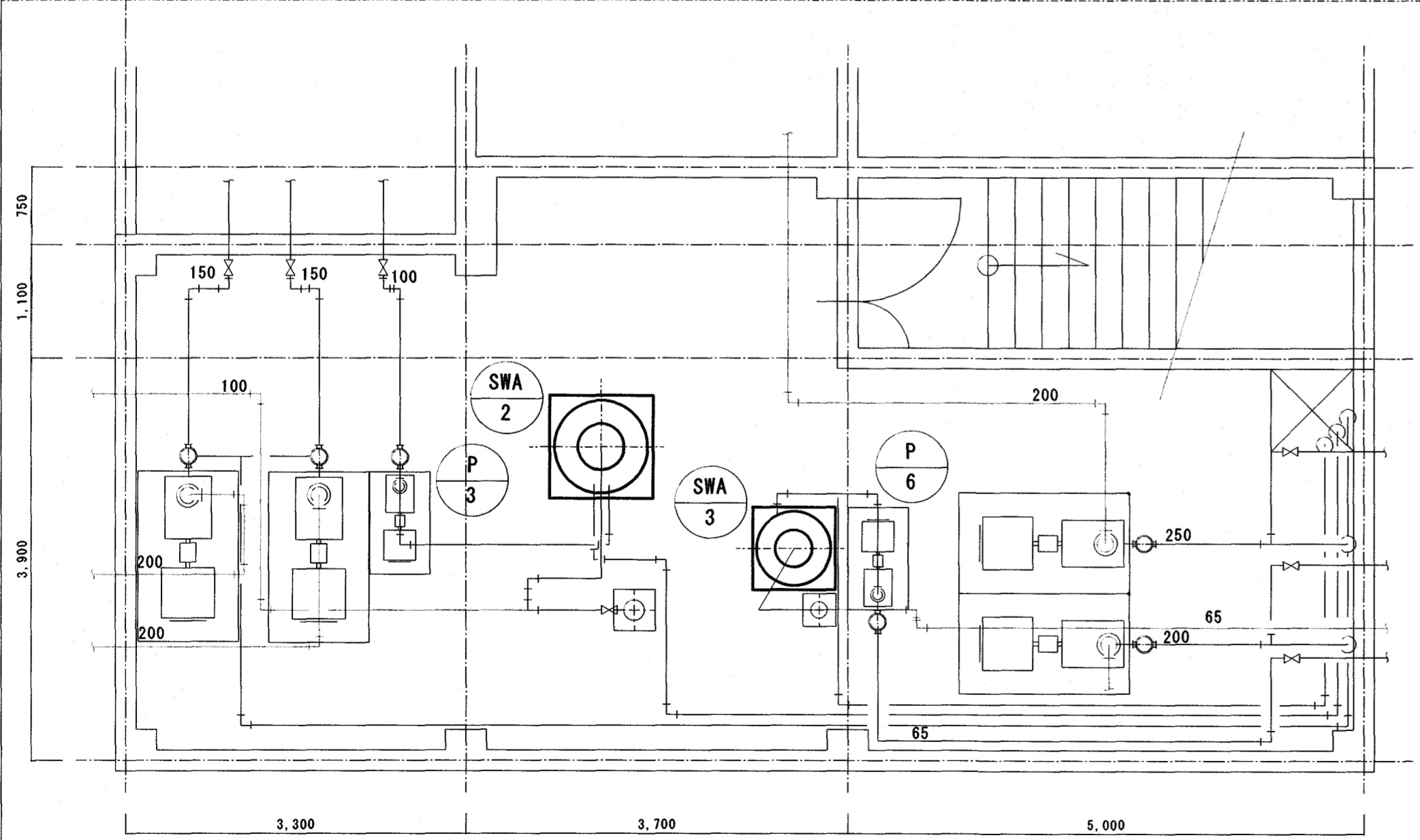
※ 上記ろ過材及び粒径等は参考とします。



機器仕様

記号	名称・仕様	台数
SWA-1	ろ過機 浮遊ろ材式ろ過器 (株式会社 石垣 ISW-A-40)	2
	処理能力 30m ³ /h ろ材: 690L	
(工事内容)		
・ろ過材及び支持床材の取替		
・新規ろ過材洗浄及びろ過機試運転調整		
・制御盤内プログラムタイマー交換 (IMC-WP500)		
・圧カススイッチ (0.13MPa AC200V SPS-18 ZDC2/SUS301) 1台の交換		
・集水ノズル用Oリングの交換 (400×355×2T ノンアス)		
・攪拌装置用Vベルトの交換 (3V475)		
・内蔵ろ過ポンプの更新 (株式会社 石垣 MPJ5-62.21E 65A×2.2kW×2P×200V×60Hz)		
※回収したろ過材は適正に処分すること。		
※ろ過ポンプの電源取外し・再結線は本工事とする。		

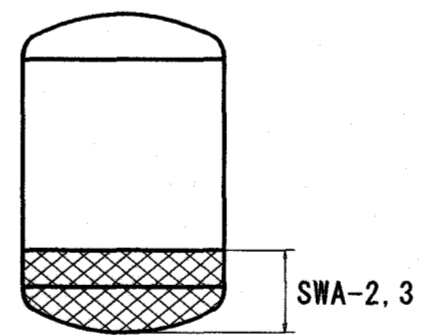
京町地区 機械室内平面図 1/50



ろ過材仕様

記号	仕様	総量
SWA-2	ろ過砂 Φ1.1mm	690L
SWA-3	ろ過砂 Φ1.1mm	240L

※ 上記ろ過材及び粒径等は参考とします。



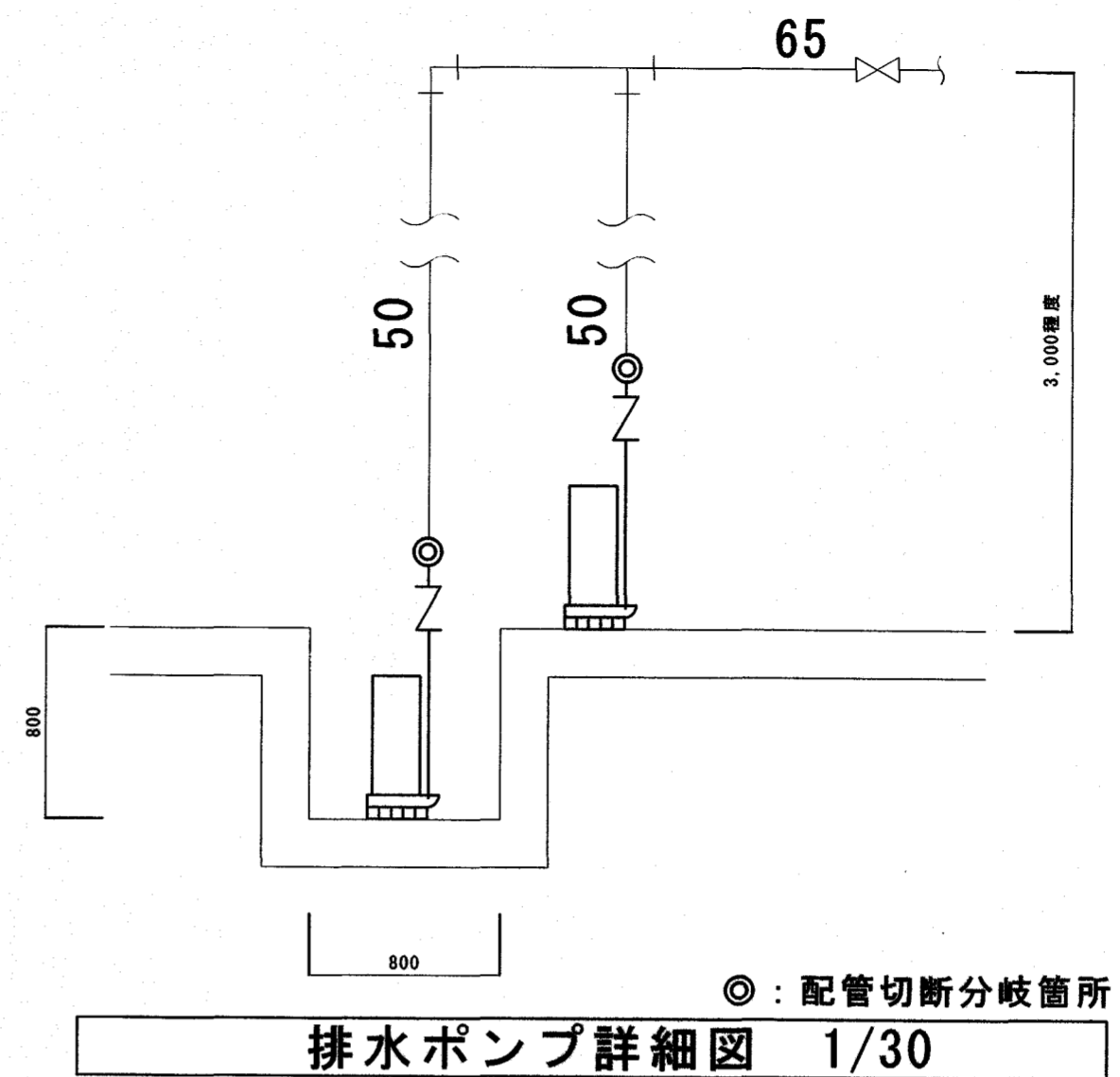
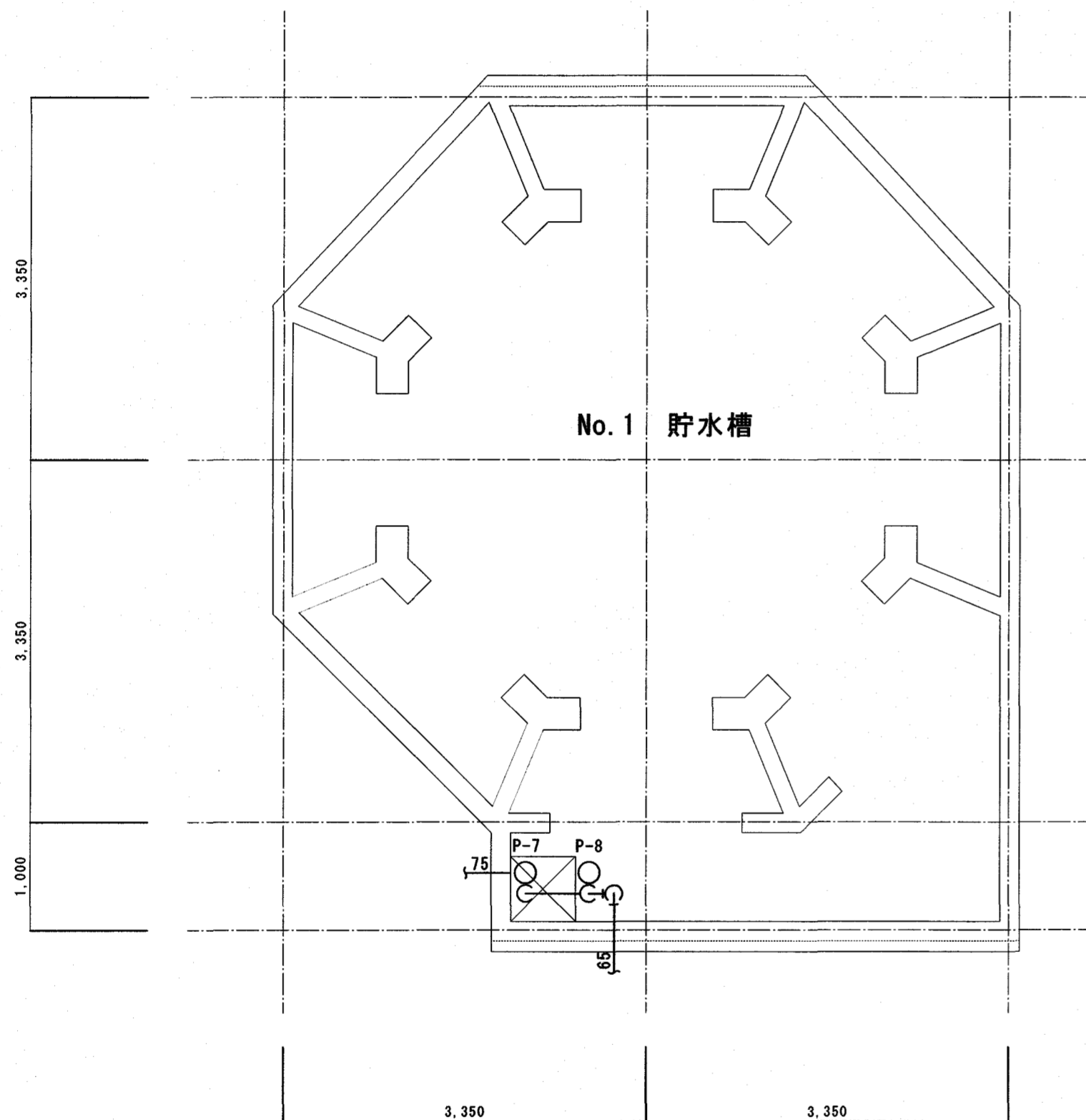
機器仕様

記号	名称・仕様	台数
SWA-2	ろ過機 浮遊ろ材式ろ過器 (株式会社 石垣 ISW-A-40)	1
	処理能力 38m ³ /h ろ材: 690L	
	(逆洗攪拌モーター 3.7kW, 専用制御盤内蔵)	
SWA-3	ろ過機 全自動上向流式急速ろ過機 (株式会社 石垣 ISW-A-20型)	1
	処理能力 17m ³ /h ろ材: 240L	
	(逆洗攪拌モーター 0.75kW, 専用制御盤内蔵)	
(工事内容)		
・ろ過材及び支持床材の取替		
・新規ろ過材洗浄及びろ過機試運転調整		
・制御盤内プログラムタイマー交換 (IMC-WP500)		
・圧カススイッチ (0.13MPa AC200V SPS-18 ZDC2/SUS301) 1台の交換		
・集水ノズル用Oリングの交換 (400×355×2T ノンアス SWA-2のみ)		
・攪拌装置用Vベルトの交換 (SWA-2:3V475 SWA-3:A-33)		
※回収したろ過材は適正に処分すること。		
P-3	ろ過循環ポンプ	既存のまま
	FSD 65Φ×50Φ×3.7kW	
P-6	ろ過循環ポンプ	既存のまま
	FSD 50Φ×40Φ×1.5kW	

中種地区 機械室内平面図 1/50

高知市 都市建設部 公共建築課

工事名	はりまや橋公園ポンプ設備等改修工事	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
図面名	京町・中種地区 機械室内平面図	縮尺	S=1/50	作図	2024年 8月 日	M-04



機器仕様

記号	名称・仕様	台数
P-7, 8	雨水槽内排水ポンプ	2
	Φ50×0.75kW	
	(水中型 フロート付 自動交互運転)	
	(工事内容)	
	・ポンプ本体の取替 取替後の試運転調整	
	・ホップ取替に伴う配管工事 (吐出: SUS50A 各1m 及び逆止弁50A 2台を見込むこと)	
	・ポンプ取替に伴う電源の取外し・再結線	
	・No.1貯水槽内の水抜き作業	

京町地区 No.1貯水槽内平面図 1/50

高知市 都市建設部 公共建築課

工事名	係	係長	課長補佐	主任	図面番号
はりまや橋公園ポンプ設備等改修工事	水関	戸田	中村	中村	M-05
図面名 京町地区 No.1貯水槽内平面図	縮尺	S=1/50, 1/30	作図	2024年 8月 日	